

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2021年3月31日

事業所名 特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			新館と旧館を渡り廊下で繋いでいるため、広く遊べる場を提供している。	広がったことで死角ができやすいため、職員間の連絡、やりとりを密にする。また個別化できるように衝立を利用する。
	2	職員の配置数は適切である	○			10人定員で3名を二枠。計6名の職員を配置している。現在実質10～16名の利用なので充実している。	来年度は新1年生が増え、実質15～19名となる。求人に期待し、適切な配置を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			縁側から車いすが入るようにスロープがある。	現在1名の車いす利用者がいる。今後の状況を見て福祉車両の検討も必要である。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		年度初めに職員が参加し、目標を決めている。その目標に対しての振り返りを年度末に行っている。	年度初めに立てた目標を各事業ごとのミーティングなどで振り返ることが必要である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			定期的な保護者面談や親の会の開催で保護者の方の意向を聞いている。	1年単位では意識が薄れるので半年に1回振り返る時間をもつ。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開している。	ホームページで公開している事を保護者等に機関誌等を通じてお知らせしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		運営の中で外部評価は行っていないが、実践報告会を行い、外部の意見をお聞きしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			1人1事例を決めて取り組んできた。外部研修に参加してもらっている。	コロナ禍でリモート研修となり、他事業所と直接つながることが出来なかった。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している		○		子ども達のやってみたい事の聞き取りを行い、計画を立てている。	保護者の方との面談は行っているが、子どもたちにもやってみたいことの聞き取りを活動写真を選ぶ方法で行った。また計画が具体性に欠けるため職員が実践できる計画内容を含めていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○	アセスメントツールは標準化されていないが、関係機関との連携によって支援を検討する努力は行った。	アセスメントツールが標準化されておらず、その時に応じた方法でアセスメントしている。今後標準化したアセスメントツールの導入を検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			月2回の職員の会議を行い、活動について話し合っている。	今後は、月2回の会議に加えて、放デイABのチーフとの3役会を行い、立案に工夫していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節的な内容、地域を意識した内容、社会体験を意識した内容を取り入れている。	コロナ禍で活動が限られる場面が多かった。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇は「生活する」という視点で関わり、平日は月毎の計画を立てて毎日1つ活動を設定している。	コロナ禍で活動が限られる場面が多かった。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団をメインに置きながらも、個別に出来ることを探して活動する場面を設定している。	子ども一人一人が集団と個別の支援を受けられるように今後も工夫していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日13:15に打ち合わせを行い、支援の共有、役割分担、活動内容、送迎の確認を行っている。	簡単な記録をとり、共有すべきことを目に見える形にしたい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2021年3月31日

事業所名 特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		支援後は時間が取れない為、次の日の打ち合わせの時や気づいたときに伝えあっている。	共有すべきことを次の日のうちあわせて話し合えるように、打ち合わせの時に職員の意見を促す工夫をする。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別記録を個別支援計画の短期目標ごとに記入する形にした。	短期目標の設定をさらに具体的な目標にして、職員全員が支援しやすいように努める。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			半期に一度振り返りを行っている。職員間で回覧したり、ミーティングで共有したりした。	同上。具体的な目標設定にして、達成、修正、維持を明確に判断できるようにしていく。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			活動設定においてガイドラインを意識した活動設定に心掛けている。	ガイドラインについて、定期的に読み合わせを行い、職員全体で共有する。	
	関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児発管が参加している。	今後は各チームや担当者が参加できるように質の向上を図る。
		21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			学校を交えた個別会議を何人か行うことが出来た。行事や積雪での下校変更など毎日連絡が出来た。	何回か下校時刻を間違えて学校に御迷惑をかけたことがある。送迎表のダブルチェックが必要である。
		22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	本事業所は主に知的障害のお子さんが利用しているため、今後も受け入れは難しいが、車いすお子さんへの対応は1名始めることが出来た。	職員体制や質の向上、環境設定を行うことで受け入れは可能となるので、検討していく。主治医との連絡体制は協力医との相談も含め実施していく。
		23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○	今年度1年生2名については出来なかった。	来年度の1年生についてはすでに連携を始めている。移行支援会議の実施を相談支援専門員を通して行う。
		24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			今年度卒業する3年生の移行支援会議に参加し、学童での育ち、個別の目標、支援内容について情報提供ができた。	本事業所は余暇支援として卒業後日中一時支援事業の利用が可能である。その強みを今後も生かしていく。
25		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			発達障害のお子さんに対し、相談支援員を通じてはるもにあと連携し、支援の共有ができた。	発達障害のお子さんに対し、面談を通じてスクラム福井やはるもを紹介し、関係機関と共に支援体制を整える。新1年生については児童発達支援センターと連携し助言を頂く。	
26		放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある				とまと児童館やゆきんこ保育園、社北公民館に野菜販売を行い、多少の交流が出来た。	コロナ禍でなかなか交流が難しいが、今後も意識してできる限り取り組む。	
27		（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○		傍聴で参加させていただく機会があった。リモート会議にも参加した。	コロナ禍でリモート会議であったり、回数が限られていたりした。今後もできるだけ参加し、地域の課題への理解から事業を見直していく工夫がある。	
28		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			お迎え時などに、今日のすばらしかったことやお友達との関わりなど絞ってお伝えしている。	最近の保護者の傾向を理解し、「子ども同士の関わりで育つ」という視点を保護者に持ってもらうように今後も働きかける。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		面談時やお迎え時、または親の会の活動の時など、保護者が子育てに自信が持てるよう関わっている。	保護者への支援は、個に応じて違うため職員間で保護者理解を共有していくことが大切である。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2021年3月31日

事業所名 特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に時間を取り、運営規定や負担について説明するとともに、「くまっこらしさ」をお伝えして理解を求めている。	見学や体験時から、くまっこが大切にできたこと（集団の中での育ちなど）をお伝えし、理解していただいて利用開始となるよう努める。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			面談時やお迎え時に、時間をかけて保護者の困り感を把握して寄り添うようにした。	職員間でこれからも保護者を支える視点で対応し、寄り添う姿勢を共有していく。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			親同士のつながりはまだまだ見えてこないが、親の会活動や行事など学童の親の参加率が上がっている。	学童の保護者のつながりは本事業所の大きな課題であった。少し前進したように見えるが、今後も活動を用意して保護者の連携を促していく。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			職員の対応や態度について保護者や学校からの苦情があったことで、その都度対応した。	職員間でこれからも保護者を支える視点で対応し、批判的な発言をしないことを共有していく。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			学童通信「みーつけた」を毎月発行し、活動の様子をお伝えしている。	個別の連絡帳のニーズがあるが、なかなかその時間を支援中に取れないため、今年度より通信の発行を行った。保護者アンケートで再度ニーズが出たら検討したい。
	35 個人情報に十分注意している		○		個人情報についてニーズを聞き取り対応している。	職員間の話題を聞き取った子どもが家庭で話をして苦情となったことがある。日々のミーティングで確認していった。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			一斉メールや個別対応のメールを通して迅速に日々意思の疎通を行っている。	メールを全員が受信できる環境を協力してただ来ます。
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			「地域とともに」の理念に即して、地域交流会、野菜の販売、ハロウィンなどを通して地域の方と交流している。	コロナ禍で、例年の収穫祭のような大掛かりな行事はできなかったが、出来る範囲で今後も地域を意識した行事活動を取り入れる。	
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			コロナ感染予防の案内を保護者に対し、年間を通じ配付した。また、コロナ感染予防の指針を作成した。	緊急時対応マニュアルや防犯マニュアルについては、目に触れるところに貼りだしてあるが、年に一度は確認していく。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			今年新家屋になり初めての避難訓練を夏季休業中に行った。	避難経路を常時確保しておくために子どもたちが鍵を触らないように指導していく。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			春先に虐待案件が起き対応するとともに職員研修を行った。	職員会議やミーティングで定期的に虐待防止マニュアルの確認を行っていく。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○	身体拘束が必要なお子さんの利用はお断りしている。	現在のところ、身体拘束に該当する子どもたちはいないが、今後利用してる子どもたちが変容していくことも考えられるので必要に応じて検討していく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○			該当する利用者がいないが、アセスメント新規の方に記入していただくの中に食物アレルギーの有無について明記していくとともに、看護師と連携する。
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットが起きたときは必ず報告書を作成し、原因や対応について日々のミーティングで話し合っている。	来年度はさらに利用者が増え、ヒヤリハットが起きやすくなるため、職員間の連絡ややり取りを強化していく。	